



2024年12月11日

報道関係 各位

地域社会と連携しながら継続的に環境美化に取り組む全国の小・中学校を表彰

## 「第25回 環境美化教育優良校等表彰事業」 最優秀校4校ほか決定

### 【最優秀校】

文部科学大臣賞	鹿児島県	きもつき きしら 肝付町立岸良学園
農林水産大臣賞	福井県	みやま 福井市美山中学校
環境大臣賞	福島県	ただみ 只見町立只見中学校
特別賞 協会会長賞	和歌山県	ほんぐう 田辺市立本宮中学校

清涼飲料・ビールなど飲料業界6団体で構成する、公益社団法人食品容器環境美化協会（称：食環協、会長：田中 美代子）は、本年度の「環境美化教育優良校等表彰事業」において、都道府県より推薦を受けた全国の小・中学校等（以下、小・中学校）の中から最優秀校4校、優秀校6校、優良校21校を選定し、表彰いたします。

この表彰事業は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組む、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校を選出し表彰するものです。

最優秀校4校は、都道府県より推薦された中から審査委員会による厳正な審査を経て、「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「特別賞 協会会長賞」にそれぞれ決定いたしました。

今回の最優秀校の中で、特徴的だったのが、豪雨被害を受けた町の復興に向けて立ち上がった2つの中学校の活動です。和歌山県田辺市立本宮中学校では、紀伊半島大水害で元気がなくなり沈んだ町を少しでも明るくしたいと、季節の花をプランターに植える美化活動に励みました。住民の家にも花を配る生徒の姿は、町に彩りをもたらし、地域の励みとなりました。また、福井豪雨で被災した福井県福井市美山中学校は、学校や川の堤防を親子でいっしょに清掃する取り組みを開始。地域美化に貢献する大切さを実感しながら、生徒は小学生にも声をかけ、協力して清掃を行う新たな活動に結びつけるなど、積極的な姿勢が高く評価されました。

最優秀校に決定した他の2校においても、地域の環境を守るために自分たちができることは何かを考え、児童生徒が先頭に立ってウミガメの保護活動を行ったり、新聞紙レジ袋を生徒が作製し住民の環境意識に変化をもたらしたりと、さまざまなアイデアで地域に貢献する姿が際立っていました。

本年度は、この表彰事業を開始してから25回を数える節目の表彰式典となります。開始当初と比べて、海洋プラスチックごみや気候変動問題など、世界規模での課題が深刻さを増していますが、今回、推薦された31校は、いずれも自分たちの地域を見据え、できることに挑戦し続け、足もとから着実に成果を上げています。

表彰式は2025年1月31日（金）、「浅草ビューホテル」（東京都台東区）にて最優秀校4校を招いて開催いたします。

式典では、各受賞校の活動の様子を、児童生徒、教師、地域住民などのインタビュー映像を通してご紹介する他、本年度は25回を記念し、今までの受賞校にスポットを当てた特別映像をご用意いたしました。中学生として式典に参加した生徒が、今は社会人として活躍する姿や当時の思いを振り返ってもらいながら、表彰事業の意義を広くお伝えしてまいります。

公益社団法人食品容器環境美化協会は、1973年に設立されて以来51年の間、飲料容器の散乱防止とリサイクル推進の啓発を中心とした環境美化の推進に努めてまいりました。日本の環境が美しくなることを目的として、「環境教育の支援」「ポイ捨て防止の啓発」ならびに「アダプト・プログラムの推進」などの事業を展開しています。

「環境美化教育優良校等の表彰」は、「環境美化教育の促進」および「地域の環境美化の啓発」を目的に2000年度から開始し、本年度が25回目となります。

環境教育への取り組みが年々重要になる中で、本年度も全国の都道府県から、独創的な環境美化教育に熱心に取り組み、校内だけでなく地域社会と連携して環境美化に大きく貢献する活動の実践に努めている小・中学校等が多数推薦されました。これら各校の活動内容を、審査委員会において厳正に審査した結果、このたび4校が最優秀校、6校が優秀校、21校が優良校として選定され、表彰の運びとなったものです。

■ 本年度の各都道府県からの推薦状況

環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動を継続している小・中学校から都道府県が1校を推薦する方式

	合計
推薦があった都道府県数	31
推薦校数	31

■ 本年度審査結果

審査委員会による審査の結果、受賞校を以下の通り決定

	受賞校数
最優秀校	4
優秀校	6
優良校	21

<最優秀校> 4校

文部科学大臣賞	鹿児島県	肝付町立岸良学園 <small>きもつき きしら</small>
農林水産大臣賞	福井県	福井市美山中学校 <small>みやま</small>
環境大臣賞	福島県	只見町立只見中学校 <small>ただみ</small>
特別賞 協会会長賞	和歌山県	田辺市立本宮中学校 <small>ほんぐう</small>

■最優秀校の活動概要（詳細はP7以降参照）

環境美化につながる散乱防止活動またはリサイクル推進活動	
文部科学大臣賞	<p>鹿児島県 肝付町立岸良学園<sup>きしら</sup></p> <p>ウミガメが上陸・産卵する砂浜が広がる岸良海岸を校区に持つ同校では、義務教育一貫校として、独自の教科「ウミガメ科」を設けている。長年続くウミガメの保護活動では、地域とともに砂浜の巡回や採卵、卵がふ化するまでの観察記録、放流会を実施。かごしま水族館と連携協定を結び「ウミガメ学習会」を開催し、住民にも参加を呼びかけ、啓発につなげている。学年に応じたテーマを設定した調べ学習も活発で、体験や学びを通じ、生物や自然保護の意識が向上。その成果は、かごしま水族館主催「ウミガメサミット」などで発表し、広く発信。さらに、年2回、住民と共同で海岸清掃を実施、海外由来の漂着ごみ問題に目を向ける機会になっている。環境意識が高まる中、休耕田を活用したもち米栽培や花植えにも挑戦。収穫したもち米や花苗は、地域への還元として住民に販売提供、毎年楽しみにしている人たちも多い。豊かな自然を守る取り組みが地域との一体感を生んでいる。</p>
農林水産大臣賞	<p>福井県 福井市美山中学校<sup>みやま</sup></p> <p>「ふるさと美山をきれいにしよう！」をスローガンに、地域一体となった環境保全活動に取り組む。生徒が自主的に計画し、実践しているのが最大の特徴で、中でも、長年続くのが、住民と連携したフラワーロードの整備作業。2004年の福井豪雨で地域が甚大な被害を受けたのを機に、その翌年から、同校周辺の清掃活動を開始した。地域の環境意識の高まりを受けて2023年からは、「美山クリーン大作戦」と称して、美山地区の掃除をしながらSDGsに因んだクイズを解くウォークラリーを企画、開催。生徒は回収ごみを分析し、ごみの違法投棄の現状についてポスターを作成、住民に配布して啓発活動につなげている。また、漁業組合からサクラマスの卵が提供され、育てた稚魚を足羽川へ放流するなど、川の生態系保全にも一役買っている。生徒の活動が地域活性化に直結していると住民から称賛の声が上がる中、生徒は今年度、校区の小学校を巻きこんだ新たな取り組みに挑む。</p>
環境大臣賞	<p>福島県 只見町立只見中学校<sup>ただみ</sup></p> <p>町全体が只見ユネスコエコパークに登録、ESDに力を入れている同校。2019年に実施した海での体験活動中、砂浜にプラごみが散乱する現状に触れた生徒が、海につながる川の上流に住む自分たちができることを考え、多彩な取り組みに挑戦している。中でも、注目を集めているのが、生徒が新聞紙で手作りしたレジ袋を商店に配布し、地域で使用する活動だ。他市町村にも広がりを見せ、生徒は新聞紙レジ袋教室を開催しながら啓発活動を展開している。同時に、ペットボトル飲料を使わない日を設定する「ペットボトル・フリー・マンデー」活動も企画、家庭の冷蔵庫に貼る啓発用マグネットを作成し、地域に配布。そうした様子に刺激を受けた地域の農家は、プラスチックコーティング肥料不使用の農業を始めるなど、地域の環境美化に対する意識や行動変容につながっている。これらの取組は、県内外で行われるシンポジウムなどで発表、「Think Globally, Act Locally」を着実に進めている。</p>
特別賞 協会会長賞	<p>和歌山県 田辺市立本宮中学校<sup>ほんぐう</sup></p> <p>2011年に発生した「紀伊半島大水害」からの復興を目指し、地域と協働でプランターの花植えを行っている。土づくりから行い、花を植えて完成したプランターは希望する住民に配布。復興から環境美化活動に形を変えた現在は、世界遺産「熊野古道」を有する環境に着目し、地域に出向きクリーン作戦を展開している。そうした中、国内外から訪れる観光客に向けた「おもてなし」の気持ちが向上、熊野古道を快適に歩いてもらう取り組みが加速。1学年は観光客へのインタビューを通じてふるさとを知る地域学習、2学年はふるさととつながる語り部学習、3学年はふるさとを拓く英語語り部学習と、学年に応じてテーマを設定。いずれも、地域ボランティアの協力を得て行われている。生徒は、観光客に自分たちのふるさとの魅力を発信。その姿勢に感動した住民は、古紙回収で得た資金を生徒の活動資金に寄付するなど、地域一体となった取り組みに成長、生徒は郷土愛が培われている。</p>

■その他受賞校:

<優秀校> 協会会長賞 6校

北海道	<small>かみしほろちょう</small> 上士幌町立上士幌小学校	山形県	酒田市立若浜小学校
新潟県	<small>たがみ</small> 田上町立田上中学校	富山県	朝日町立あさひ野小学校
山口県	<small>こうなん</small> 宇部市立厚南中学校	佐賀県	<small>ふるえだ</small> 鹿島市立古枝小学校

<優良校> 協会会長賞 21校

青森県	<small>とよだ</small> 弘前市立豊田小学校	宮城県	<small>わたのは</small> 石巻市立渡波中学校
秋田県	男鹿市立北陽小学校	栃木県	<small>もおか</small> 真岡市立大内中学校
群馬県	伊勢崎市立第四中学校	東京都	北区立滝野川第二小学校
石川県	<small>はくい はくい</small> 羽咋市立羽咋小学校	山梨県	<small>いちかわみさと ろくごう</small> 市川三郷町立六郷中学校
岐阜県	<small>かかみがはら</small> 各務原市立中央中学校	静岡県	<small>いわた とよだみなみ</small> 磐田市立豊田南小学校
愛知県	一宮市立萩原中学校	三重県	<small>わたらい わたらい</small> 度会町立度会中学校
京都府	南丹市立殿田小学校	大阪府	<small>さくらのみや</small> 大阪市立桜宮中学校
兵庫県	<small>ぬしま</small> 南あわじ市立沼島小学校・南あわじ市立沼島中学校	徳島県	<small>なると はやさき</small> 鳴門市林崎小学校
奈良県	奈良市立月ヶ瀬中学校	福岡県	<small>まだ</small> 朝倉市立馬田小学校
高知県	室戸市立羽根小学校	宮崎県	宮崎市立青島中学校
大分県	<small>さかのせき</small> 大分市立佐賀関小学校		

■表彰授与

●最優秀校4校の表彰式は、下記にて行います。

- 2025年1月31日(金) 15:00~17:00 (受付 14:00~)
- 浅草ビューホテル 3階「祥雲の間」

東京都台東区西浅草3-17-1 電話 03-3847-1111

<https://www.viewhotels.co.jp/asakusa/> \*つくばエクスプレス「浅草駅」直結

- 懇談会 17:30~19:00 28階「ベルヴェデーレ」

●優秀校ならびに優良校については、各地にて、食環協地方連絡会議員が相談の上、各受賞校にて表彰伝達式を開催する予定です。

- 主 催：公益社団法人 食品容器環境美化協会
- 後 援：文部科学省、農林水産省、環境省
- 表彰の対象：環境美化教育に独創的・継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校、およびこれに準ずる小・中学生の団体（以下「小・中学校」）
- 表 彰：
  - 最優秀校 文部科学大臣賞 1校
  - 最優秀校 農林水産大臣賞 1校
  - 最優秀校 環境大臣賞 1校
  - 最優秀校 特別賞 協会会長賞 1校
  - ◇ 賞状と副賞を贈呈
  - ◇ 上記の他、「優秀校」「優良校」に対し、協会会長賞として賞状と副賞を贈呈
- 推薦・審査：都道府県の環境整備主管部局、または教育主管部局が推薦する小・中学校を審査委員会で審査
- 審査委員：
 

[審査委員長]	小澤 紀美子	東京学芸大学名誉教授 公益社団法人 こども環境学会 顧問
[審査委員]	小川 晃範	公益財団法人 日本環境協会 専務理事
	國分 重隆	全国小中学校環境教育研究会 顧問 明星大学 教育学部 教職担当客員教授
	小島 あずさ	一般社団法人 JEAN 事務局長・副代表理事
	長塚 真行	公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 業務執行理事 企画広報部長
	波田 真由美	公益社団法人 食品容器環境美化協会 企画委員 一般社団法人 日本果汁協会 検査所長
	槇林 靖典	公益社団法人 食品容器環境美化協会 企画委員 大塚製薬 株式会社 総務部 環境推進室 室長

(50音順 敬称略)

## 公益社団法人食品容器環境美化協会の概要

### ■ 沿革

- 1973年（昭和48年） 任意団体「食品容器環境美化協議会」として発足
- 1982年（昭和57年） 社団法人「食品容器環境美化協会」（農林水産大臣設立認可）  
体制整備を図り、事業活動を強化するため公益法人化
- 2011年（平成23年） 公益社団法人「食品容器環境美化協会」（内閣府認可）  
公益法人制度の改革に伴い、内閣総理大臣から公益社団法人の認定を受け、「公益社団法人」として再発足

### ■ 主な活動：

- 新しいまち美化手法「アダプト・プログラム」の普及と推進活動
- 小・中学校でのパソコン学習支援サイト「まち美化キッズ」の運営、教育者向け「環境美化 学習ガイド」の制作提供等の次世代への環境教育支援 <https://www.kankyobika.or.jp/kids/>
- 市民団体等による環境美化活動への支援
- 「ポイ捨て防止」啓発活動
- 散乱ごみ対策の調査・研究 等

### ■ 構成団体：

- 一般社団法人 全国清涼飲料連合会 <https://www.j-sda.or.jp/>  
清涼飲料水製造・販売事業者及びその関連事業者、並びにその事業発展に貢献する事業者等からなる社団法人
- 一般社団法人 全国トマト工業会 <https://www.japan-tomato.or.jp/>  
トマト及びびんこんじん等の加工製造に関係を有する個人又は団体からなる社団法人
- 一般社団法人 日本果汁協会 <http://www.kaju-kyo.ecnet.jp/>  
果汁又は果実飲料に関係を有する事業を行う者又はこれらの者をもって組織する団体等からなる社団法人
- 日本コーヒー飲料協会  
コーヒー飲料メーカーなどからなる任意団体
- コカ・コーラ協会  
日本コカ・コーラ社と全国のコカ・コーラボトリング社からなる任意団体
- ビール酒造組合 <https://www.brewers.or.jp/>  
アサヒビール、キリンビール、サッポロビール、サントリー、オリオンビールのビール5社による特別認可法人

### ■ 本件に関するお問い合わせ先 ■

公益社団法人食品容器環境美化協会（食環協）

担当：佐藤

TEL. 090-6003-4903 E.MAIL [sato.k@kankyobika.or.jp](mailto:sato.k@kankyobika.or.jp)

ホームページ <https://www.kankyobika.or.jp/>



ウミガメ保護活動でお世話になった地域にもち米栽培で恩返し

文部科学大臣賞 鹿児島県 肝付町立岸良学園

毎年ウミガメが上陸し卵を産むことで知られる岸良海岸が校区にある同校。2021年に義務教育学校として開設し、1年生から9年生の児童生徒が恵まれた自然環境を生かした活動に取り組む。最大の特徴は、「ウミガメ科」という独自の教科を取り入れ、学年に沿ったテーマを組んで学びを深めていることだ。なかでも、旧岸良小学校時代から25年以上続く「ウミガメ保護活動」は、保護者や住民の協力が欠かせない地域行事になっている。ウミガメの産卵シーズンには、住民らによる砂浜巡回活動がスタート。上陸情報に基づき、児童生徒は採卵し、同校の敷地にある「ウミガメハウス」に移し保護する。ふ化するまでの間、気温や湿度、砂の温度や雨量などを毎日決まった時間に観測し、記録する。ふ化後は、放流会を実施。関心を寄せる住民にも声をかけ、子ガメが海に向かう姿を地域一体となって見送る。

「ウミガメ科」開設に伴い、かごしま水族館と連携協定を結んだ効果も顕著だ。同校での記録データを水族館に提供したり、同館の学芸員を招聘し、住民たちも招待してウミガメ講演会を開催したりと、貴重な知識や情報が行き交う関係性が築かれている。その一連の取り組みは、ウミガメ保護という側面だけではなく、ふるさとの環境保護意識向上にもつながった。住民と年2回行う岸良海岸の清掃活動では、海外由来の漂着ごみに着目した児童生徒が、自分たちが今できることに挑戦中だ。景観保全活動も活発で、休耕田を利用したもち米栽培では、田植えや稲刈りなどを体験後、地域に販売提供。楽しみにしている住民も多く、岸良地区公民館長の中原栄子さんは、「活動を通じつながりができた子どもたちの頑張る姿を見て、我々大人は常に元気もらっています」とほほえむ。義務教育学校のメリットを生かし、課題にじっくり向き合った児童生徒は、町内外で行われる発表会で発信。

同校のある肝付町には、JAXAのロケット発射場がある。校舎からもロケットの打ち上げが見え、みんなでカウントダウンしながら盛大に打ち上げを見守る。宇宙に飛び立つロケットと大海原に繰り出すウミガメ。ともに子どもたちの夢や希望をのせて彼方に送り出す壮大なイベントは、郷土愛を育みながらこれからも連綿と受け継がれていく。



### 鹿児島県 肝付町立岸良学園 (きしらがくえん)

学校長：西 康隆 (にし やすたか)

児童生徒数：児童 11名 生徒 9名 (2024年11月末現在)

住所：鹿児島県肝付郡肝付町岸良 207-1

電話：0994-68-2014

アクセス：鹿児島空港から車で約2時間

上：ウミガメが上陸産卵する美しい白砂の岸良海岸、2左：採卵したウミガメの卵をウミガメハウスに埋め戻す、2右：ふ化したウミガメを放流する様子、3左：おびただしい数の漂着ごみを住民とともに回収、3右：生徒が栽培したもち米は住民に大人気、下：学習会や講演会などウミガメ科で学んだことを地域内外に発信

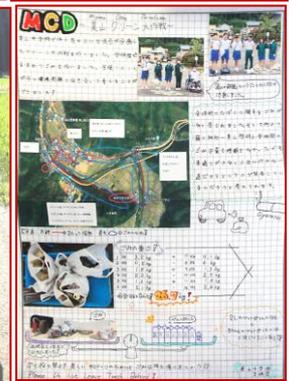
地域や家庭の力を蓄えた生徒が小学生を巻き込んで環境保全に尽くす

## 農林水産大臣賞 福井県 福井市美山中学校

町の総面積の90%が山林地帯で、鮎釣りのメッカ、足羽川が山あいを流れる美山町。その豊かな自然に抱かれるように建つ同校では代々、「ふるさと美山をきれいにしよう！」という思いを継承、地域一体となった環境保全に取り組む。その一つが、「フラワーロード奉仕活動」だ。住民とともに年2回、国道沿いを中心に季節の花植え、除草、後始末などを行う。年々高齢化が加速する中、生徒の協力は欠かせず、住民は生徒の成長を見守る貴重な機会にもなっている。

そんな交流が築かれた地域を2004年、福井豪雨が襲った。町は甚大な被害を受け、同校も1階や体育館が浸水。当時の生徒は、奉仕活動で培った精神を発揮し復興に尽力、その翌年からは「親子奉仕作業」がスタートした。校舎の念入りの清掃や足羽川堤防の草刈りに親子で取り組む。参加した保護者は同校卒業生も多く、自分の子どもといっしょに母校を磨くことに意義を実感。地域美化に貢献する住民の協力体制も整う中で、生徒は自発的に「美山クリーン大作戦」を企画し実施した。縦割り班を組みポイ捨てごみを回収し、クイズを解きながら楽しく活動することが狙いで始めたが、学年を超えた交流が活発化し、評判を呼んだ。ごみは想像以上に多く、掃除機やタイヤといった粗大ごみもあったことに驚いた生徒は、ごみの実態をまとめたポスターを作成し、地域に配布。手ごたえをつかんだ生徒は、普段交流の機会がない小学生にも声をかけ、翌年は規模を広げ、校区の3つの小学校と合同で「SDGsアドベンチャー」を行った。美山クリーン大作戦をベースに取り組み、小学生を終始リードしながら美山の自然を身近に感じ共に美化意識を育んだ。

こうした活動成果を50年近く発信する舞台がある。東京に本社がある前田建設工業株式会社だ。創業者が旧美山町出身の縁で毎年、生徒が会社訪問し、社長にプレゼンする。ものおじすることなく意欲的に挑む生徒の行動力に、福井市美山公民館の館長井村彰男さんは、「家庭の力、地域の力が根っこにあるから子どもたちは活躍の場を広げることができる」と感心する。地域のために小学生といっしょに新たなことに取り組もう一持ち前のチャレンジ精神を生かし、生徒は来年に向けて実施したい活動の構想を着々と描く。



### 福井県 福井市美山(みやま)中学校

学校長：竹野 亨(たけの とおる)

生徒数：62名(2024年11月末現在)

住所：福井県福井市美山町9-14

電話：0776-90-3020

アクセス：JR越美北線「美山駅」より徒歩約5分

上：林業が盛んな美山町の豊かな自然景観、2左：福井豪雨で甚大な被害を受けた同校、2右：地域住民と取り組むフラワーロード奉仕活動、3左：生徒が企画し小学生とともに取り組んだSDGsアドベンチャーの様子、3右：ごみの現状を伝える生徒手づくりのポスター、下：前田建設工業の社長の前で堂々とプレゼンする生徒

## 海岸清掃を機に作製した新聞紙レジ袋が住民の行動変容に直結

### 環境大臣賞 福島県 只見町立只見中学校

日本有数の豪雪地帯として知られる只見町は、雪がもたらす希少な動植物の宝庫で、豊かな生態系が育まれている。その自然環境を守るために、ユネスコスクールに認定された同校では、地域とともに多様な取り組みを実践している。中でも注目を集めているのが、新聞紙をリサイクルして生徒が作製した新聞紙レジ袋を、地域の商店がポリ袋の代わりに実際に利活用している取り組みだ。主に昼休み時間を使い、毎週 100 個ほどの新聞紙レジ袋を作製。作ったレジ袋は、商店で使ってもらえるよう生徒自身が売り込み、各店舗の在庫管理や発注作業も行う。この活動が誕生したきっかけは、海での体験学習中に、砂浜に散乱する漂着ごみの多さに生徒が抱いた危機感だ。海につながる川の上流で暮らす自分たちができることを考えた結果、ごみで目立ったプラスチック製のレジ袋に着目、まずは地域から減らそうと開始したのが始まりだ。生徒の活動に感心した住民からの要望を受け、新聞紙レジ袋作製教室を地域で開催。他市町村にも伝わり、生徒はイベントなどに出向き、地域内外で新聞紙レジ袋を広めている。その姿は、地元の農家を動かし始めた。

生徒の活動に刺激を受けた「さんべ農園」代表取締役の三瓶陽太さんは、「生徒の活動から多くを学んでいて、私も米農家として、プラスチックコーティング肥料を使わない技術を導入し、日々奮闘しています」と意欲を見せる。その米農家からは、不要になった頑丈な米袋を学校に提供してもらい、生徒はミシンを使って、新聞紙よりもさらに強固なレジ袋を作製。重いビンにも対応できるので主に酒屋で使用、来客からは大好評で、すぐに品切れになるという。手ごたえを実感する生徒は、ブナ間伐材の活用が盛んな只見町をアピールした「SDGs カラーホイールバッジ」も作成。丸くカットした木材に 17 色の色づけをし、SDGs の推進を願い地元の企業やイベント時に配布している。こうした取り組みは、県内外で行われるシンポジウム等で発信し、多くの反響に自信を深めている。

漂着ごみの現状を知った生徒が足もとから見直すために始めた小さな活動が、地域を巻き込む中で、大人の考えや行動を大きく変えていき、町にあらたな活気をもたらしている。



#### 福島県 只見町立只見（ただみ）中学校

学校長：伊藤 知雄（いとう ともお）

生徒数：69 名（2024 年 11 月末現在）

住所：福島県南会津郡只見町大字黒谷字上野 300

電話：0241-84-2022

アクセス：JR「只見駅」から車で約 10 分

上：休み時間を利用して新聞紙レジ袋を一枚一枚作製する生徒たち、2 左：商店に置かれた生徒手づくりの新聞紙レジ袋、2 右：新聞紙レジ袋教室を開催し、住民に作り方を伝授、3：海岸清掃活動の様子、下左：米づくりに使用する肥料について米農家から教わる、下右：SDGs カラーバッジ、地域内外のシンポジウム等で広く発信する生徒

## 花で町を彩る復興から観光客のおもてなしへ広がる地域の強い絆

### 特別賞 協会会長賞 和歌山県 田辺市立本宮中学校

緑濃い山々がつらなり、日本古来の祈りの文化が息づく熊野本宮。世界遺産に登録された「熊野本宮大社」や「熊野古道」には現在、世界中から多くの観光客が訪れる。そんな奥深い山の間には幾筋もの川が流れており、たびたび氾濫を繰り返してきた。2011年の「紀伊半島大水害」では、記録的な豪雨により町が甚大な被害を受け、尊い命や多くの家屋が奪われた。元気がなくなり沈んだ地域を少しでも明るくしたいと立ち上がったのが、当時の中学生たちだ。季節の花を植えたプランターを、町の見抜き通りや施設などに設置。住民の家にも配り続ける生徒の生き生きとした姿は地域の励みとなり、泥だらけの町が花で彩られ、徐々に明るさを取り戻していった。それから10年以上が経過し、「復興」を果たした現在は、国内外から訪れる観光客に向けた「おもてなし」を目的とした活動に深化。道端のポイ捨てごみを回収しながらたくさんのプランターの花でおもてなしする精神は、世界遺産をふたつ抱える環境を生かした世界遺産学習でも発揮される。

熊野古道では損傷が著しい箇所を修復する「道普請（みちぶしん）」を実施。階段状に木組みを設けたり、土を補充したりと大変な作業だが、観光客に安全に歩いてもらおうと生徒は裏方として支える。一方で、自分たちの町の魅力をアピールするために、地域の顔として「語り部」にも挑戦。世界遺産センターや熊野本宮大社、熊野古道などを訪れる観光客に話しかけ、海外からの観光客とは英語で交流しながら学んだことを披露している。いずれの取り組みも地域の協力が不可欠で、いろんな活動に関わる住民の羽根千恵子さんは、「こうした体験学習を通じて地域の魅力に気付いてもらい、いったん社会に出てからも本宮に帰ってきてくれたらうれしい」と期待を寄せる。世界遺産登録20周年の節目に当たる本年度、熊野本宮大社で記念シンポジウムが開催された。出席した生徒がこんなスピーチをし、来場者の胸を打った。

「本宮の人たちには優しさがあり、その優しい人たちが私は大好きです。そんな町を支えていける人に私はなりたい」。かつて被災した地域を花いっぱい元気づけた生徒の思いを受け継ぎながら、年々強くなる住民との絆を糧に、ふるさとへの誇りを胸に刻んでいる。



#### 和歌山県 田辺市立本宮（ほんぐう）中学校

学校長：工藤 英樹（くどう ひでき）

生徒数：44名（2024年11月末現在）

住所：和歌山県田辺市本宮町本宮 730

電話：0735-42-0273

アクセス：「南紀白浜空港」から車で約80分

上：住民の指導を得てプランターに花植えをする生徒たち、2左：熊野古道の修復用に重たい土を担いで運ぶ、2右：木枠を階段状に設置する道普請、3左：海外の観光客と交流しておもてなし、3右：花植えプランターを置く前に道端を清掃の様子、下：シンポジウムなどで地域の歴史や魅力を英語で語って広く発信する